

GPSSグループ
サステナビリティレポート
2020



GPSS

SUSTAINABLE WORLD WITH SUSTAINABLE ENERGY



GPSS グループは、サステナブル投資に積極的に取り組む団体や評価機関である GRESB、JSIF、LTI/A に加盟しています

INDEX

1 GPSSについて	
1 GPSSグループ代表兼サステナビリティ委員会 委員長からのメッセージ	P6
2 GPSSのESGへの取り組みとそのプロセス	P7
3 このレポートの目的	P8
4 GPSSについて	P9
5 GPSSのビジネスモデル	P11
6 GPSSのビジョンと価値観	P12
7 GPSSのサステナビリティに対する志と目標	P13
2 環境に対するGPSSの取り組み	
8 環境へのビジョン	P15
9 実績の数値化	P16
10 生物多様性の保護	P17
11 二酸化炭素排出量の削減	P18
12 エネルギーと資源の有効活用	
3 GPSSが社会に与えるポジティブな影響	
13 地域コミュニティ開発	P20
14 ステークホルダーとの関係	P21
15 ダイバーシティとインクルージョン (個々の多様性を受容し活かし合うこと)	P22
16 従業員エンゲージメント(従業員と企業の 信頼関係、同じ目標を共有していること)	P23
17 従業員の健康と安全	P25
18 責任ある資材調達	P26
4 GPSSのコーポレートガバナンス	
19 コーポレートガバナンスの構造	P28
20 サステナブルなガバナンス	P29
21 企業倫理	P30
22 プロセスマネジメント	P31
23 外部からの評価	P33

GPSSについて

1 GPSSグループ代表兼サステナビリティ委員会委員長からのメッセージ



いま、私たちはエネルギー革命の真っ只中にいます。

世界では、化石燃料から持続可能なエネルギーへの移行が着実に進んでいます。日本では、東日本大震災の後、ようやく再生可能エネルギーの普及を促進するために、固定価格買い取り制度 (FIT) が導入されました。しかしながら、経済産業省の2030年の日本の電源構成の目標は、再生可能エネルギーが22~24%と、その目標さえ達成されるか怪しい状況です。

日本のエネルギー自給率は、わずか8%。残りの92%を輸入に依存している化石燃料は、将来必ず消滅します。そして化石燃料は市場価格が不安定なだけでなく、為替にも大きく左右されます。日本の国の借金がGDPの200%を超えた現実を踏まえると、日本ほどエネルギーの自給が必要な国はないでしょう。ほぼ無限にある持続可能なエネルギーにシフトすることが急務なのです。

私たちは、持続可能な社会を目指しています。GPSSという社名には、再生可能エネルギーのコストが化石燃料よりも安価になる「グリッド・パリティ」を達成することで、持続可能な社会を作る、という思いが込められています。

そして私たちには、もうひとつの使命があります。それは幸福な社会を作ることです。私は世界100か国以上の旅をして、人々が幸せになりやすい社会と、そうでない社会があることに気が付きました。幸福度の高い社会は、個人の自由が最大限に尊重されるべく多様な価値観が認められています。だから私たちは、多様性をとても重視しています。個性が最大限に発揮されることで、よりクリエイティブで、幸せな個人が増えていきます。

個性あふれる社員が持続可能な社会のために努力することで、GPSSでは、個人の幸福追求と社会的な利益を、同時に達成することが可能となってくるのです。

GPSSグループ代表兼サステナビリティ委員会委員長
目崎雅昭

2 GPSSのESGへの取り組みとそのプロセス

内容と手法

私たちGPSSは地域コミュニティとともに歩みます。私たちが持つ専門性や知識、そして地域の持つ未利用の豊かな資源を活用し、ともに新たなエネルギーの未来を創り出すことが私たちの目標です。この目標達成に向けて、私たちは、環境・社会・ガバナンスに関する方針を定め、それを核としたビジネスに取り組んでいます。私たちの行う発電所の開発や運営、地域コミュニティの発展に向けた活動すべてが、持続可能なビジネスに結びつき、新たな価値を生み出すよう日々邁進しています。

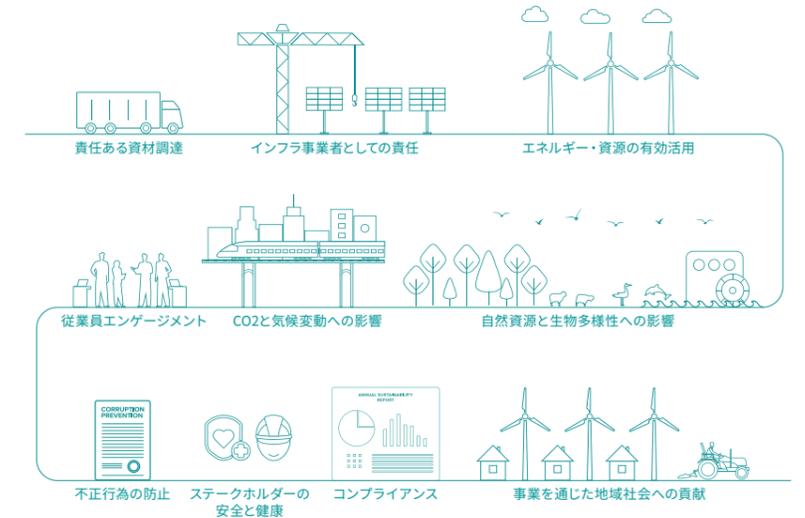


図1_ESGインフォグラフィックス

GPSSの力・財産

1) 人と文化

様々なバックグラウンドを持つ才能あふれる従業員 (2020年2月現在で175名) が、GPSSのビジョンの実現に向けてともに働いています。

2) 自然資源

地域コミュニティは、まだ手付かずの資源で溢れています。太陽光、風力、水力、地熱、バイオガスなどエネルギーへの可能性を秘めたこれらの資源を、地域それぞれのニーズに応じた形でアセスメントを行い、持続可能な活用へと繋げます。

3) ノウハウとテクノロジー

私たちには、地域の資源を持続可能なエネルギーとして活用するための豊富な経験、専門的テクノロジー、ノウハウそしてインサイトがあります。地域コミュニティとともに、その地域に最も相応しいソリューションを提供します。

4) ステークホルダーとのパートナーシップ

私たちは地域コミュニティの人々とその地域を取り巻く環境に相応しい持続可能なエネルギーのソリューションを提案し実現することを目的としています。地権者の皆様、自治体の皆様、地域に根差した団体の皆様など、その地域を担う方々と共同でIPP (独立系発電事業) を運営します。

新たな価値の創出

私たちは、ともに歩むコミュニティの皆様 に役立つよう、私たちの持つ力を活用します。私たちの志は、厳しいESG基準を満たしながら、その地域に新しい機会、新しい価値を生み出すことです。

	Environment 持続可能エネルギーによる社会の脱炭素化 地域自然環境への配慮 エネルギー、資源の有効活用
	Social 地域社会への貢献 従業員の安全とエンゲージメント 持続可能な調達
	Governance インフラ事業者としての責任 企業倫理へのコンプライアンス 情報開示とコミュニケーション

3 このレポートの目的



このレポートは、2014年から2020年の活動、その間のGPSSの進歩をまとめています。私たちのサステナビリティ方針に照らし合わせて、重要な問題や活動に焦点を当て、正確で透明性が高く、信頼のおけるレポートになるよう最大限の努力をしています。

レポート内にある情報（グローバルインパクト、ESGポリシー、SDGsに対する志や目標など）は、以下のリンクでご覧になることができます。

<https://gpssgroup.jp/sustainability/>
<https://gpssgroup.jp/esg-policy-jp/>



4 GPSSについて

/社名の由来

GRID PARITY FOR SUSTAINABLE SOCIETY

私たちの社名「GPSS」は、5種類のサステナブルエネルギーで「グリッド・パリティ」を達成し、真にサステナブルな社会を作るというビジョンを象徴しています。グリッド・パリティとは、サステナブルエネルギーのコストが従来のエネルギーと同等かそれ以下になる、という意味です。

GPSSの主な事業はサステナブルエネルギーの開発及び投資事業、発電事業の保有・運営、投資家向けデューデリジェンスサービス、大規模IPP（独立系発電事業）向けの発電モニタリングサービスなどがあります。

地権者の皆様、自治体の皆様、地域に根差した団体の皆様など、その地域を担う方々と共同でサステナブルエネルギーによる発電所を保有するIPP（独立系発電事業）を運営いたします。

子会社を含む当社グループ全体では計画中のプロジェクトも含め83件の発電所の開発・施工・運営を行っています。

/GPSSグループについて

GPSSグループは、各事業会社の専門性を活かし、サステナブルな5つのエネルギーを組み合わせることでグループの相乗効果を発揮する事業を展開しています。



図2_グループ構造

GPSSについて

5 GPSSのビジネスモデル

発電所の開発・建設には大きなコストが伴います。グループ内の金融部門は第二種金融取引業の資格を有しており、必要に応じて直接金融・間接金融の手法を使い分け、商用化のための資金調達を行い、発電事業の推進を円滑にサポートします。

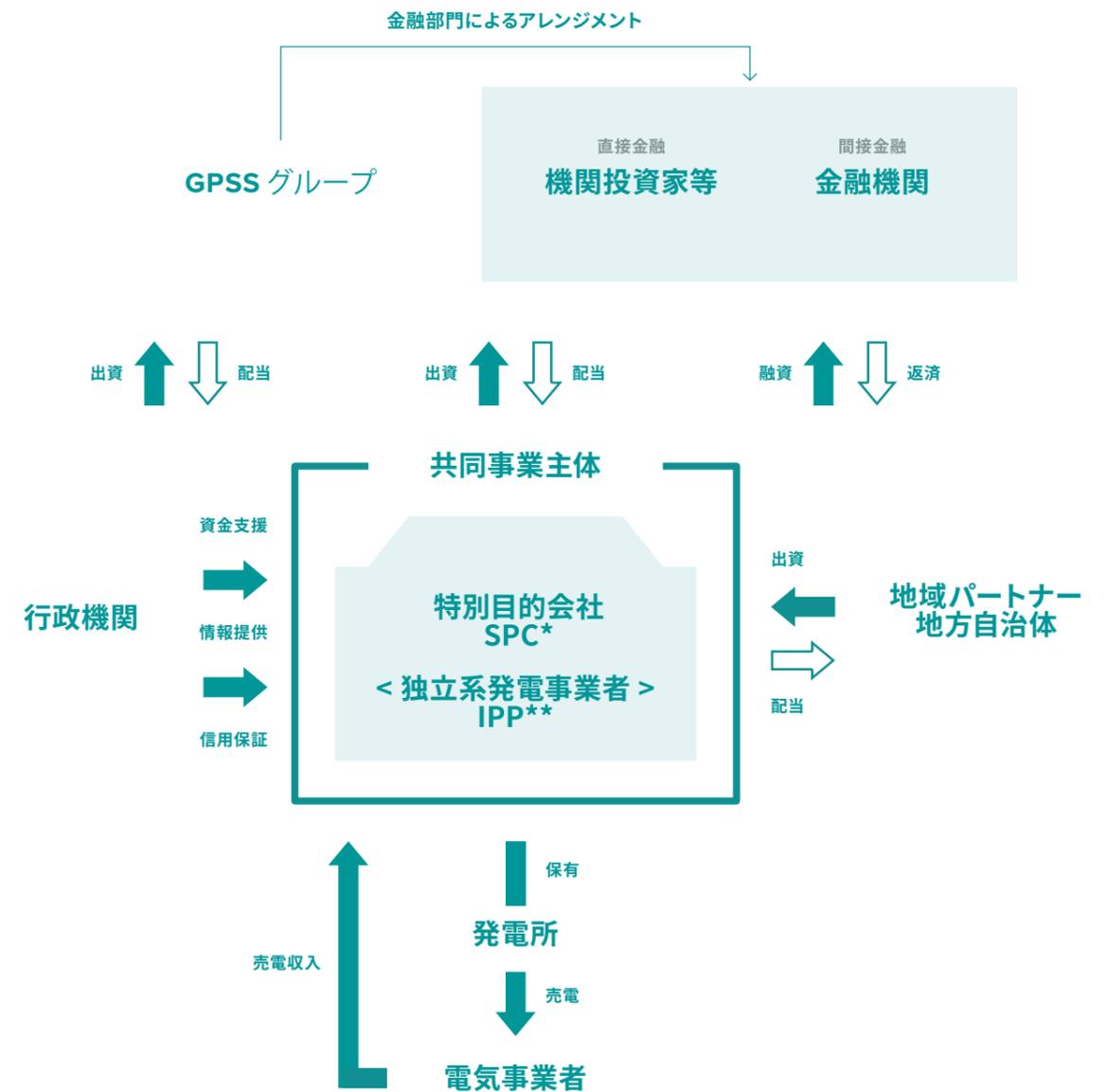


図3_GPSSのビジネスモデル

* SPC : Special purpose company 特別目的会社
 ** IPP : Independent Power Producer 独立系発電事業者

6 GPSSのビジョン、価値観

/GPSSのビジョン

サステナブルエネルギーの「グリッド・パリティ」で、サステナブルな社会を実現します。

GPSSグループは、輸入に頼る化石燃料ではなく、安心かつ安定したサステナブルエネルギー100%のサステナブルな社会を目指します。

/GPSSの価値観

<p>多様性 Diversity</p> <p>異なる文化や価値観、相手の考えや自由をも尊重します。</p>	<p>誠実 Integrity</p> <p>約束を守ります。隠し事をせず、真実を語ります。</p>
<p>責任 Accountability</p> <p>自発的に行動を起こし、責任を持ちます。ステークホルダーの満足を追求します。</p>	<p>独創性 Creativity</p> <p>環境の変化に備えるため、革新的かつ独創的であり続けます。</p>

7 GPSSのサステナビリティに対する志と目標

私たちは、ビジネスの目的と国連SDGsに貢献するという方針に従って、志と目標を策定しました。

<p>エネルギー、資源の有効活用</p> <p>AMBITIONS/志 発電所の開発・管理に使用する燃料や原材料などのエネルギーの有効利用を推進します。廃棄物の発生を抑え、可能な限りリサイクルします。</p> <p>TARGETS/目標 廃棄物のリサイクルについて100%追跡できるよう、年間を通じて、燃料や材料の使用をモニターします。</p> <p>IMPACT ON SDGs 7 7. 持続可能なエネルギー、12 12. 持続可能な消費と生産</p>	<p>自然資源と生物多様性への影響</p> <p>AMBITIONS/志 地域社会にサステナブルエネルギーを導入し、発生する二酸化炭素排出量とエネルギー使用量を管理することにより、生物多様性と天然資源への影響を軽減します。</p> <p>TARGETS/目標 関連するすべてのプロジェクトに対し生物多様性評価（環境アセスメント）を実施し、生物多様性への影響を管理します。</p> <p>IMPACT ON SDGs 12 12. 持続可能な消費と生産、15 15. 陸域生態系の保護</p>	<p>責任ある資材調達</p> <p>AMBITIONS/志 仕入れ先（サプライヤー）と結んだサステナビリティ条項を遵守します。起こりうるリスクの基準を明確にし、管理しているサプライチェーン以外にも目を配りながら各調達プロセスを追跡、我々のシステムに情報を取り込みます。</p> <p>TARGETS/目標 2025年までにすべての提携企業との契約にサステナビリティ条項を加え、またすべての仕入れ先（サプライヤー）に対してESGアセスメントを行います。</p> <p>IMPACT ON SDGs 12 12. 持続可能な消費と生産</p>	<p>インフラ事業者としての責任</p> <p>AMBITIONS/志 電力供給サービス、運用に関わるリスクを最小限に抑え、安定した電力を供給します。サステナビリティ方針に掲げている組織のレジリエンスを強化します。</p> <p>TARGETS/目標 2021年までに100,000MWhを生産することにより、計画された全プロジェクトを遂行します（2019年と比較して2倍以上の発電量）。</p> <p>IMPACT ON SDGs 5 5. ジェンダー平等</p>
<p>不正行為の防止</p> <p>AMBITIONS/志 汚職などの不正行為を許さない腐敗防止対策に従って倫理的にすべての事業を実施します。</p> <p>TARGETS/目標 あらゆる腐敗行為を防止し、社内規定や法令を遵守します。腐敗防止対策を確実なものとするよう、ステークホルダーと定期的に意見交換をします。</p> <p>IMPACT ON SDGs 16 16. 平和と公正</p>	<p>ステークホルダーの安全と健康</p> <p>AMBITIONS/志 従業員、当社の事業に関与する下請け従業員ならびに当社がサービスを提供する地域の皆様を含むすべてのステークホルダーの健康と安全を確保します。</p> <p>TARGETS/目標 定期的な安全トレーニングを通じて、死者ゼロ・事故ゼロの維持に努めます。</p> <p>IMPACT ON SDGs 3 3. 健康とウェルビーイング、11 11. 持続可能な都市とコミュニティ</p>	<p>事業を通じた地域社会への貢献</p> <p>AMBITIONS/志 質の高いサステナブルエネルギー、またそれらにまつわるサービスを提供することにより、地域社会のニーズに応えるサステナブルで自力復興力のある社会を実現します。</p> <p>TARGETS/目標 2021年までに毎年13,000世帯以上に電力を供給することにより、サステナブルエネルギーの使用を促進します。また、弊社の発電所がある地域の活性化に貢献します。</p> <p>IMPACT ON SDGs 11 11. 持続可能な都市とコミュニティ、15 15. 陸域生態系の保護</p>	<p>従業員エンゲージメント（従業員と企業の信頼関係）</p> <p>AMBITIONS/志 多様な背景を持つ従業員が、適切に権限を与えられ、評価され、尊重されていると感じる職場風土を作り、維持します。</p> <p>TARGETS/目標 今後さらなる組織改善を図るために、従業員満足度調査において（ESS）80%の回答率を維持します。2025年までにマネジメント職の女性の割合を11%に増やします（2020年現在：7%）。</p> <p>IMPACT ON SDGs 5 5. ジェンダー平等、8 8. 持続可能な成長、10 10. 労働と経済的権利</p>
<p>コンプライアンス</p> <p>AMBITIONS/志 事業の透明性を高め、サステナビリティに関する取り組みを開示します。</p> <p>TARGETS/目標 年次サステナビリティレポートを通じてステークホルダーに報告することにより、説明責任を果たします。</p> <p>IMPACT ON SDGs 16 16. 平和と公正</p>	<p>二酸化炭素と気候変動への影響</p> <p>AMBITIONS/志 サステナブルエネルギーを普及させることにより、社会全体の気候変動の緩和と二酸化炭素排出の削減に貢献します。</p> <p>TARGETS/目標 2021年までに年間二酸化炭素削減効果を2倍にします。（2019年と比較して二酸化炭素を22,000t削減）</p> <p>IMPACT ON SDGs 13 13. 気候変動と災害対策</p>	<p>従業者エンゲージメント（従業員と企業の信頼関係）</p> <p>AMBITIONS/志 多様な背景を持つ従業員が、適切に権限を与えられ、評価され、尊重されていると感じる職場風土を作り、維持します。</p> <p>TARGETS/目標 今後さらなる組織改善を図るために、従業員満足度調査において（ESS）80%の回答率を維持します。2025年までにマネジメント職の女性の割合を11%に増やします（2020年現在：7%）。</p> <p>IMPACT ON SDGs 5 5. ジェンダー平等、8 8. 持続可能な成長、10 10. 労働と経済的権利</p>	<p>コンプライアンス</p> <p>AMBITIONS/志 事業の透明性を高め、サステナビリティに関する取り組みを開示します。</p> <p>TARGETS/目標 年次サステナビリティレポートを通じてステークホルダーに報告することにより、説明責任を果たします。</p> <p>IMPACT ON SDGs 16 16. 平和と公正</p>

環境に対する GPSSの取り組み

環境に対するGPSSの取り組み

8 環境へのビジョン

なぜ環境が重要なのか

私たちの主な事業は天然資源に依存しています。これらは健全な環境が与えてくれるものです。私たちは持続可能なエネルギーの発電所の開発を通じて、化石燃料のような従来のエネルギーへの依存を減らし、国内でエネルギー自給できるよう貢献しています。



9 実績の数値化

2014年以来、100,400MWh以上の電力を生み出しています。これは年間、22,800世帯以上に電力を供給していることと同じです。この再生可能エネルギーを二酸化炭素排出量の削減に換算すると、2014年以降51,400tもの二酸化炭素を削減していることとなります。



*2020年6月時点

エネルギー関連指標	2017	2018	2019	2020*
運転中発電所の設備容量合計(kW)	16,000	26,500	47,800	53,600
- 太陽光 (kW)	16,000	26,400	47,000	52,800
- 地熱 (kW)	-	45	765	765
再生可能エネルギーの年間総売電量 (MWh)	7,600	20,000	40,000	23,800
二酸化炭素削減効果 (ton) **	3,900	10,250	20,500	12,200

表1_エネルギー関連指標 *2020年6月時点 **発電量 (MWh) x 0.512 (国のCO2係数)

10 生物多様性の保護

GPSSは、責任あるインフラ事業者として可能な限り天然資源や生物多様性への悪影響を与えないよう配慮し、調達、エンジニアリング、運用まで、バリューチェーンを通して様々な取り組みを行っています。

まず、地域の法規制を遵守するのはもちろんのこと、開発プロジェクトに伴う環境リスクを確実に軽減するために、環境アセスメントの一環として、地方自治体と協力して厳格かつ徹底的な生物多様性アセスメントを実施しています。さらに、サステナブルなビジネスを目指し、その地域コミュニティの方々の健康と暮らしを守るため、風評リスクを最小限に抑えるよう努めます。

環境アセスメントの事例：

- 放射能評価
- 騒音と振動の影響
- 地元の植生と動物のアセスメント
- 水アセスメント (近くの池、川)
- 土壌と地面のアセスメント
- 景観アセスメント
- 大気汚染アセスメント (風力発電所)
- 地域の鳥の生息地への影響 (風力発電所)
- 地域の魚類生息地への影響 (地熱発電所)

1ha以上の大きさの発電所の場合、建設と発電プロセスが野生動物や植物の生息地への影響を及ぼさないか、厳密なアセスメントを行います。次の表はそのアセスメントからの数字をいくつか表しています：

生物多様性と生息環境指標	2018*	2019*
1haを超える発電所の総表面積 (ha)	15	58
除去された生息環境の割合 (%)	58	59
敷地内で保護/保全した生息環境の割合 (%)	39	30
改善/回復した生息環境の割合 (%)	1	9
野生動物や絶滅危惧種の死	0	0

表2_生物多様性指標 *会計年度 (4月から)

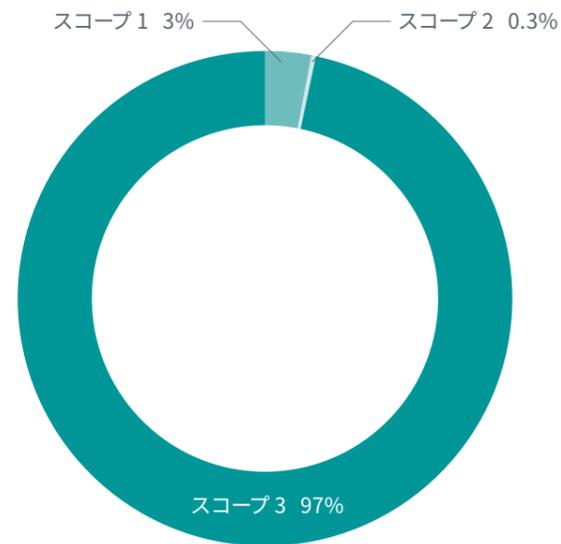
環境に対するGPSSの取り組み

11 二酸化炭素排出量の削減

サステナブルエネルギーを生み出すGPSSでは、私たち自身が生産工程中で排出する二酸化炭素量についても強く意識しています。「GHGプロトコル事業社排出量算定報告基準」を使用してスコープ（範囲）1、2、3の温室効果ガス排出量を計算しています。今後、二酸化炭素排出を減少するため排出量のモニタリングを続けます。

GHG排出指標	2019*
スコープ1(t-CO2)	97
スコープ2(t-CO2)	8
スコープ3(t-CO2)	3,011

表3_GHG排出指標 *会計年度(4月から)



グラフ4_スコープ1, 2, 3におけるCO2排出量%

環境に対するGPSSの取り組み

12 エネルギーと資源の有効活用

私たちは、「サステナビリティ方針」に掲げられている通り、建設および運用段階での燃料と材料の使用を削減するよう努めています。建設段階で発生する廃棄物を地方自治体に積極的に報告し、年間の廃棄物排出量を社内で確認しています。

廃棄物と燃料指標	2019*
リサイクル廃棄物を含む総固形廃棄物 (t)	202
稼働中のMWあたりに発生する固形廃棄物の合計 (t / MW)	3.7
生成燃料 (t-CO2)	97
購入エネルギー (MWh) **	238

表5_廃棄物と燃料指標 *会計年度(4月から) **発電所とオフィス用

GPSSが社会に与える ポジティブな影響

13 地域コミュニティ開発

当社にとっての重要性

私たちは地域社会との共生に努めています。GPSSの考える真のサステナビリティは、サステナブルエネルギー事業を行う上で重要なパートナーである地域コミュニティとの長期にわたる関係から生まれると信じています。

よって、私たちの各発電所は地域社会との共同事業によって成り立っています。以下が2つの代表的事例です。



長万部グリーンエナジー太陽光発電所

長万部地方創生推進事業発電（北海道）

長万部グリーンエナジー太陽光発電所は東京理科大学とGPSSの地域創生プロジェクトです。GPSSが研究開発セクションの地方創生コンソーシアムに参画。再生可能エネルギー（太陽光発電）発電容量は3MWで、長万部町でGPSSエンジニアリングが運営しています。

北海道の大島県にある長万部町は、310.75km²の小さな町で、推定人口は6000人強です。太平洋に面しており、その経済は主に林業、漁業、乳製品で構成されています。コミュニティの支援とパートナーシップにより、長万部グリーンエナジー発電所は2019年1月中旬に送電網に接続し、300万kWhを超える電力を生産および販売しました。711世帯以上に電力を供給し、1600tを超える二酸化炭素排出を削減しました。

さらに、地域の施設は、緊急時に無停電の電源装置を備え、約3~4世帯に電力を供給できる30kWの容量を持つように設計されています。

詳細は、以下のリンクからご覧ください。
<http://osyamanbe.jp>

松之山湯本地熱バイナリー発電（新潟）

2019年12月、GPSSは十日町市と松之山温泉のパートナーシップを結んで松之山温泉合同会社「地・EARTH（ジアス）」を設立。この提携は、観光を通じて事業所とその周辺地域を活性化することを目的としています。

GPSSが提供する発電事業や保守サービスに加え、発電用に抽出した温水を温泉に再注入することで、地下資源を最大限に活用することを目指しています。

十日町地熱発電所は2020年末に運転を開始する予定です。

詳細は、以下のリンクからご覧ください。
http://www.city.tokamachi.lg.jp/kurashi_tetuduki/A004/1547701131387.html



勢いよく蒸気を発する十日町の地熱発電現場

14 ステークホルダーとの関係



太陽光発電事業説明会の様子

ステークホルダーと効果的なコミュニケーションをとるために、開発段階から説明会を実施し、プロジェクトの概要、また、地域社会に与える影響について説明しています。

また、プロジェクトのあらゆる段階で、私たちは地域のニーズに応えるよう努めています。GPSSのプロジェクトはひとつひとつ異なり、ニーズも様々です。だからこそ、常にプロジェクトを個々のニーズに合わせて修正・対応することが重要であると考えています。それがサステナブルでプロフェッショナルな関係の鍵であると信じています。

さらに、ほとんどの建設プロジェクトで、地元の雇用を重視し、可能な限り地元の請負業者に発注しています。

ステークホルダー関係指標	2018	2019	2020
社員によるボランティア参加	20	25	0*
地元事業者	120	129	82**

表6_ステークホルダー関係指標

*新型コロナパンデミックによる影響

**2020年6月のデータ

GPSSが社会に与えるポジティブな影響

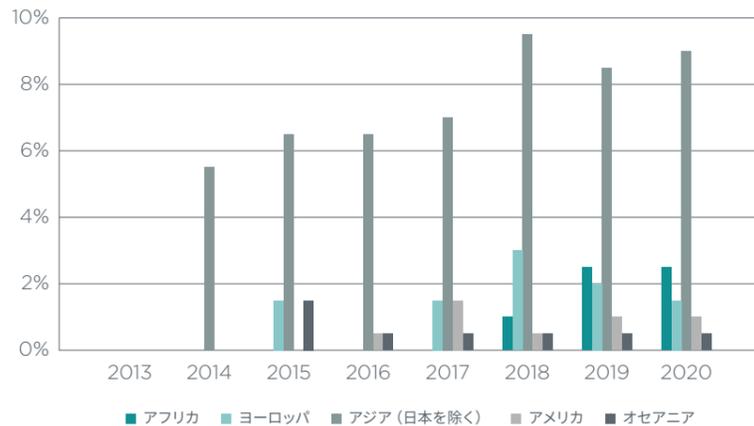
15 ダイバーシティとインクルージョン (個々の多様性を受容し活かし合うこと)

GPSSでは、従業員が共通のビジョンと文化を守りながら、個性を表現できる環境を大切にしています。したがって、ダイバーシティとインクルージョンは、積極的な従業員エンゲージメント（従業員と企業の信頼関係）のための革新的制度であるだけでなく、財務収益の向上につながる事業戦略でもあります。

従業員関連の指標	2018	2019	2020
総従業員数	141	155	175
女性社員比率 (%)	21	23	26
障がい者従業員	1	1	1
外国人 (日本人以外) 従業員の雇用率 (%)	11	15	18

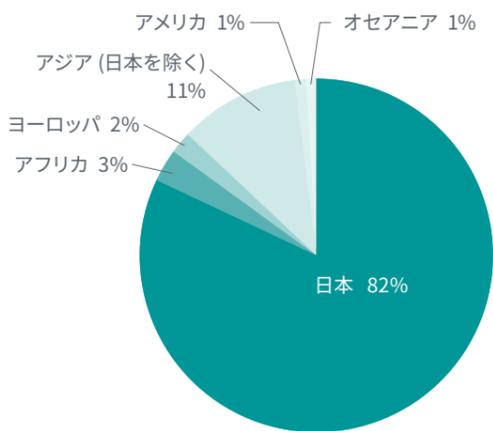
表7_従業員関連の指標 *パートタイマー、インターンを含む 2020年2月現在のデータ

労働力の多様化：従業員の国籍



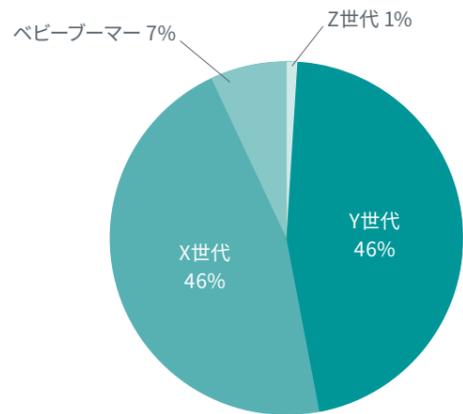
グラフ9_労働力の多様化 *2020年6月のデータ

ベビーブーマー : 1946~1965年生まれ
 X世代 : 1966~1976年生まれ
 Y世代 : 1977~1994年生まれ
 Z世代 : 1995~2012年生まれ



グラフ8_従業員の出身地域

国籍の多様化に注力し、積極的なダイバーシティ・イニシアチブの結果、2020年6月現在、2018年より3人多い22国籍の従業員を擁しています。さまざまな世代の人々を採用し、かつ調和を維持しています。



グラフ10_従業員の年齢 *2020年2月のデータ

GPSSが社会に与えるポジティブな影響

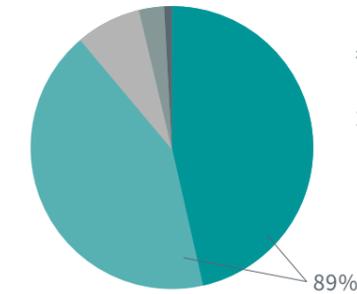
16 従業員エンゲージメント (従業員と企業の信頼関係、同じ目標を共有していること)

従業員満足度調査

2020年6月に実施した年次社内従業員満足度調査では、すべての従業員が調査に参加し、回答率は76%でした。

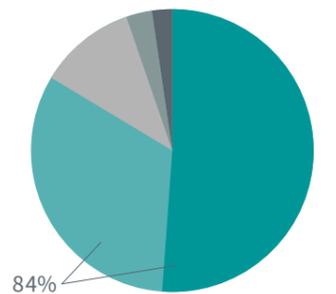
山路を登りながら

グラフ11_従業員満足度調査



従業員の89%は、「私の現在の仕事は価値があり、やりがいがある」という問いに、「強く同意」、または「ほぼ同意」と回答しています。また81%は、残業の量が妥当であることも「強く同意」、または「ほぼ同意」と回答しています。

さらに、回答者の84%は、会社の理念、ビジョン、およびマネジメントポリシーに「強く同意」、または「ほぼ同意」と共感しており、ともに達成したいと考えています。



「サステナ対話会」

サステナビリティ委員会は、意識を高め、従業員をよりサステナブルな世界に向けた弊社のビジョンに合わせるために、プラスチック汚染の現実、遠隔作業のメリット、日本の男女共同参画を取り巻く問題など、多岐に渡るトピックを掲げ、サステナビリティについて話し合うための対話セッションを毎週開催しています。2020年3月の開始以来、会社の10%以上が少なくとも1回以上のセッションに参加しています。セッションはオンラインで開催され、すべての従業員が参加できるようになっています。



人材育成

GPSSでは、人材育成もサステナビリティ実現に寄与すると考えています。その第一歩として継続的な人材育成とトレーニングに取り組んでいます。

資格保有者数

第一種電気主任技術者	1名
第二種電気主任技術者	3名
第三種電気主任技術者	9名
1級電気工事施工管理技士	11名
1級土木施工管理技士	7名
1級管工事施工管理技士	3名
1級建築施工管理技士	2名
第一種電気工事士	12名
第二種電気工事士	13名
一級ボイラー技士	2名

*2020年6月現在のデータ



*安全管理室で行われている研修も含む

CSRデザイン環境投資顧問株式会社によるESGトレーニング

サステナビリティ調査「GRESB」参加支援コンサルティングやESG取組み推進・ESG情報開示の推進を務めるCSRデザイン環境投資顧問株式会社によるESG投資とサステナブルファイナンスに関するトレーニングを、全従業員に向けて毎年開催しています。このトレーニングを通してGPSSのビジョンの伝達と統合を図っています。

CSR DESIGN CSRデザイン環境投資顧問株式会社

GPSSが社会に与えるポジティブな影響

17 従業員の健康と安全

GPSSの安全衛生は、従業員、請負業者、および地域コミュニティを対象としています。GPSSには、従業員、現場作業員、請負業者の安全衛生の評価、実施、監督、報告を担当する2つの組織があります。安全管理室とHSE委員会 (Health, Safety & Environment) です。



建設現場で働く従業員（社員と請負業者）の健康と安全を管理すべく、トレーニング、監督、報告を行います。

オフィス内、出張中の社員の健康と安全を管理します。

グラフ12_GPSSでの健康と安全

GPSSは従業員の安全や社の財産を守るため、高い安全基準を確保し、年間を通じて詳細かつ組織化されたトレーニングを実施しています。安全衛生管理室は、毎年安全の基本方針とスローガンを設定し、すべての従業員がそのスローガンを遵守するよう促します。また、すべての新入社員向けにトレーニングを実施することで、現場へ入る前の段階から従業員の安全を守る総合的な施策を実施しています。発電所の建設前に、安全キックオフ会議が開催され、すべての労働者が各建設現場の特異性、例えば、地震が発生しやすい地域での安全対策の再確認、熱中症のリスク軽減、その他事故予防または事故発生後などの対策の徹底を実施しています。また、オフィスでは毎年、避難訓練が行われます。

上記の安全対策に加えて、各稼働中の発電所にて毎月安全パトロールが実施され、発生する可能性のある問題を綿密に監督、記録、および報告する態勢を整えています。

安全管理室で行われている研修の例：

- 足場組立研修
- ハーネス講習
- 職長教育
- 低圧電気研修
- 保安向け教育



労働災害統計	2018	2019	2020 (6月末時点)
死亡者（人）	0	0	0
休業1日以上の方災件数	1	3	0
延べ休業日数	10	40	0
休業日数を伴う方災頻度 (LTIFR)	14.5	43.7	0

表13_労働災害統計



GPSSの コーポレートガバナンス

これまでの健康管理と今後の計画

健康習慣の推進や職業病予防の取り組みを通じて、全従業員を対象に毎年健康診断を実施しています。

また、最近の新型コロナウイルス感染症拡大を受け、弊社では早期から適切な衛生マナーの促進、全従業員へのN95マスクの定期的な配布と着用義務付け、エアロゾル消毒の日常的な使用、在宅勤務の導入など、効率的に適応してきました。

従業員にとって最良の環境を確保するため、すべての作業スペースにおいてオフィス内の空気管理を専門業者に依頼しています。

また、各従業員に適切にフレックス労働体制を導入。柔軟なワーキングスタイルを実現することにより適切なワークライフバランスを可能にする職場環境づくりに取り組んでいます。

GPSSが社会に与えるポジティブな影響

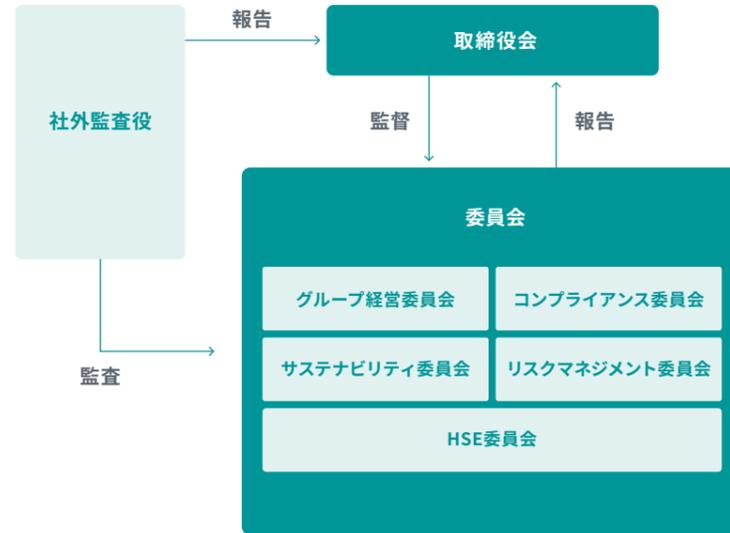
18 責任ある資材調達

GPSSでは「サステナビリティ方針」で定義された「サステナビリティへの志と目標」を通じて調達プロセスの向上に取り組んでいます。GPSSの仕入れ先（サプライヤー）に対しても、私たちが方針遵守を徹底し、よりサステナブルなバリューチェーンの実現を目指しています。



19 コーポレートガバナンスの構造

GPSSホールディングスのコーポレートガバナンス体制は、取締役会と社外監査役の二つで構成されています。このガバナンスモデルにより、客観性と透明性を確保し、責任ある経営体制を整えています。



グラフ14_GPSSホールディングスコーポレートガバナンス体制

取締役会

当社の取締役会は、4名の社内取締役、3名の社外取締役、1名の社外監査役で構成されています。

取締役会の主な責任は、経営活動を定義し、上級管理職を監督し、事業執行に関する問題に取り組むことです。取締役会は、取締役会規則の規定に従い、3か月に1回開催されます。

取締役会は定期的に株主総会を招集し、株主提案に対する意思決定力を行います。株主総会では、株主が役員報酬の総額を設定します。

また、取締役会が担う意思決定プロセスをより効果的に実行するため、取締役会は特定の委員会によってサポートされています。



社外監査役

社外監査役は、社内から昇進するのではなく、社外から任命され、経営者の監査や会計監査を行い、不正な業務執行をチェックし、最終的には防止・是正することを主な責務としています。

2019年には松本靖彦氏がGPSSホールディングスの社外監査役に4年間の任期で任命されました。

20 サステナブルなガバナンス

GPSSでのサステナビリティ

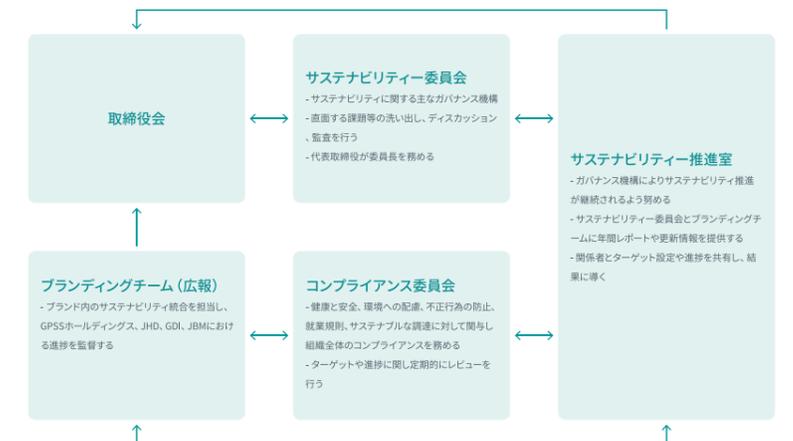
サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会の主な目的は、グループ全体の事業活動におけるESG（環境、社会、ガバナンス）のリスクと機会を検討、議論、および実施することです。CEOが議長を務める委員会は、サステナビリティ推進体制に規定されている取締役会に、その計画と目的を毎年報告しています。

サステナビリティ推進室

推進室の役割は、サステナビリティ委員会をサポートし、事業活動や従業員エンゲージメント（従業員と企業の信頼関係、同じ目標の共有）やトレーニングを通じてサステナビリティ関連のイニシアチブを促進することです。

サステナビリティ統合フレームワーク



グラフ15_サステナビリティ統合フレームワーク

その他委員会

コンプライアンス委員会

コンプライアンス違反に該当懸念のある事項についての対応決議を行います。

グループ経営委員会

グループ経営方針の決定を行います。

開発委員会

グループの開発会社およびSSIMのサスエネに係る開発案件について、プロジェクト進行の統括および案件進行の可否を決定しています。

21 企業倫理

GPSSでは、会社の倫理規定と行動規範を定めています。この規範は、社内のビジネスのあり方だけでなく、従業員が地域コミュニティの方々や地方自治体、お取引先、同僚、その他のステークホルダーの皆様といたに誠実に関わるべきを示しています。

地域コミュニティへの貢献

地域を支える住民の皆様、地方自治体やコミュニティとのパートナーシップを築き、地元の皆様のニーズに応えられるよう努力します。

ビジネスパートナー

お互いが信頼し発展できるよう、ステークホルダーやビジネス上のパートナーとなる皆様と公正で透明な関係を構築します。

インフラ事業者としての責任

安定した電力の供給、継続的な運用のために、徹底した管理、プロセスマネジメント、組織体制の強化に努めます。

内部告発・公益通報者の保護

法律違反の可能性がある事柄、または不正を告発した従業員に対し、解雇等の不当な報復行為を禁止します。

環境保全

環境に関する法規制を厳守し、創業の原点とも言えるサステナブルな社会の実現の為に責任ある資源の活用に取り組んでいます。更に、サステナブルなエネルギーサイクルの構築により、温室効果ガスの排出軽減へ貢献します。

人権の尊重

国連で採択された世界人権宣言に基づき、個人の人権・人格を尊重し、組織の多様性を推進します。また、個々がお互いを尊重し合う誠実な職場環境を築き、精神的・肉体的・外見等、あらゆる差別やハラスメントを排除します。

公正な取引

すべての取引および業務が公正に、かつ透明性を持って運営され、情報開示されることを推進します。また、贈収賄・汚職・詐欺・マネーロンダリングなどの不適切な活動を防ぐための措置を講じます。さらに、誠実であること大切にし、利益相反や先入観・偏見のない経済活動を目指します。

反社会的勢力の排除

反社会的勢力および関係のある団体と、一切関係を持ちません。

情報の保護と管理

個人情報やお客様・お取引先等の秘密情報に関するセキュリティを徹底し、保護することを約束します。当社の厳格なセキュリティ対策を以て、情報の適切な管理、機密データの非開示、およびデータへの不正アクセスの防止を保証します。

権限の委任

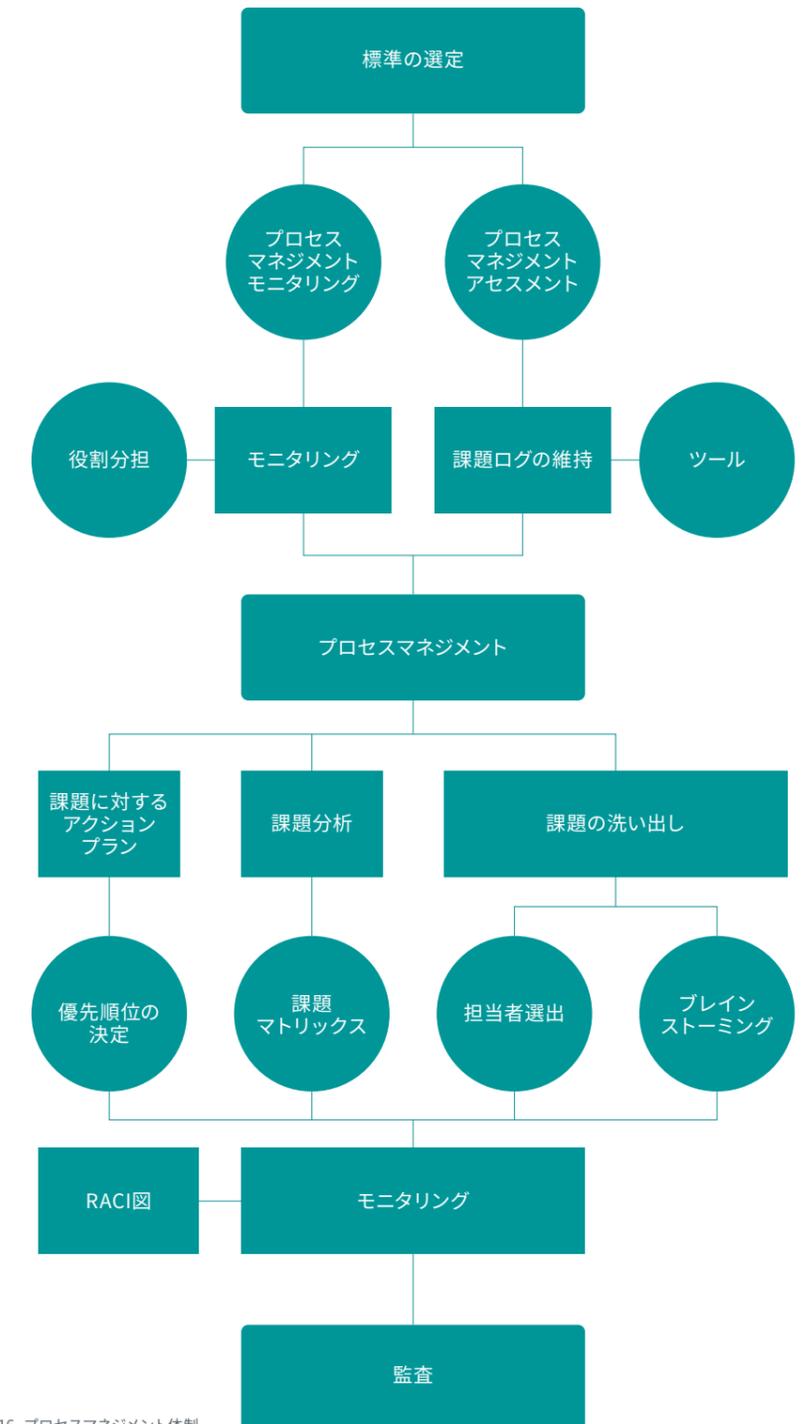
組織の構造、職務権限や責任を明確にし、その構造に沿った権限を委任することにより、健全なコーポレートガバナンスに取り組んでいます。



22 プロセスマネジメントの導入計画

サステナビリティの追求において、プロセスマネジメント、そしてその過程で起こりうる課題の管理はビジネスの継続性の基盤となります。GPSSグループは、戦略的、運用的、および財務的なレベルで、主な課題を徹底的に評価するプロジェクトを進めています。ここで明確になった課題は、適切な監督のもと管理されるよう努めます。さらに、プロセス管理を組織戦略に統合することを計画しています。

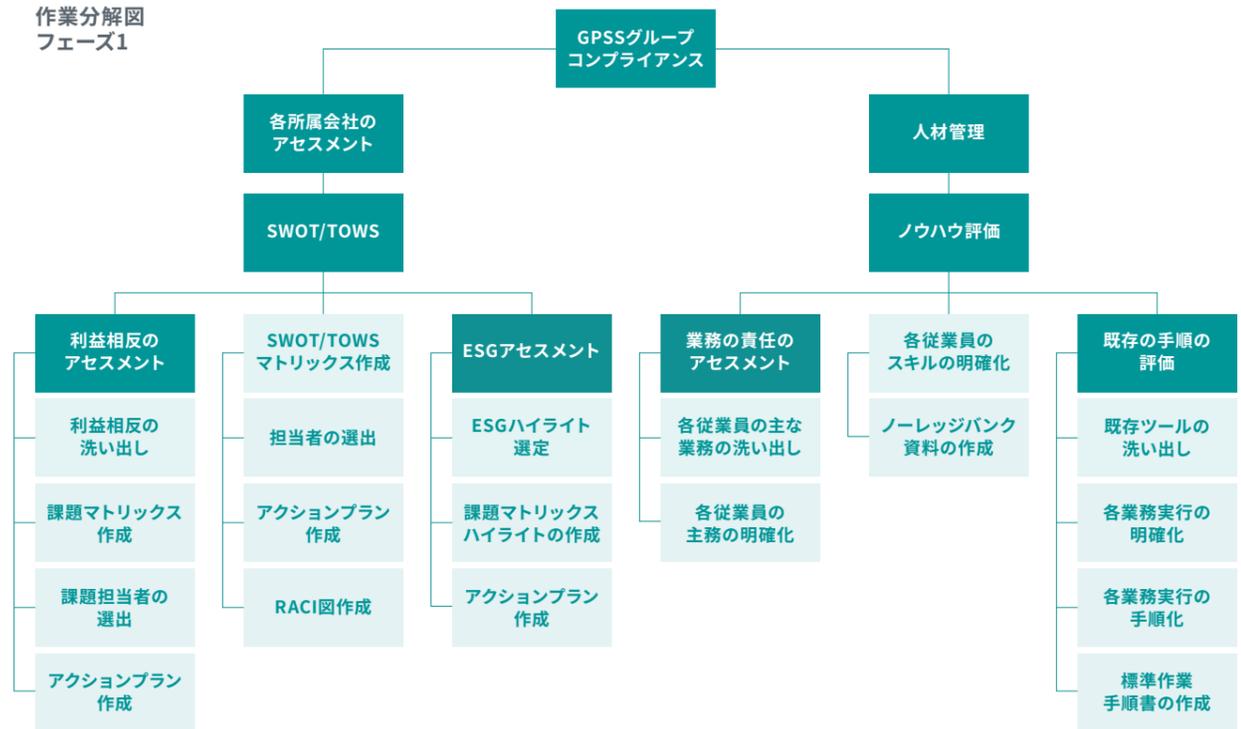
プロセスマネジメント体制



グラフ16_プロセスマネジメント体制

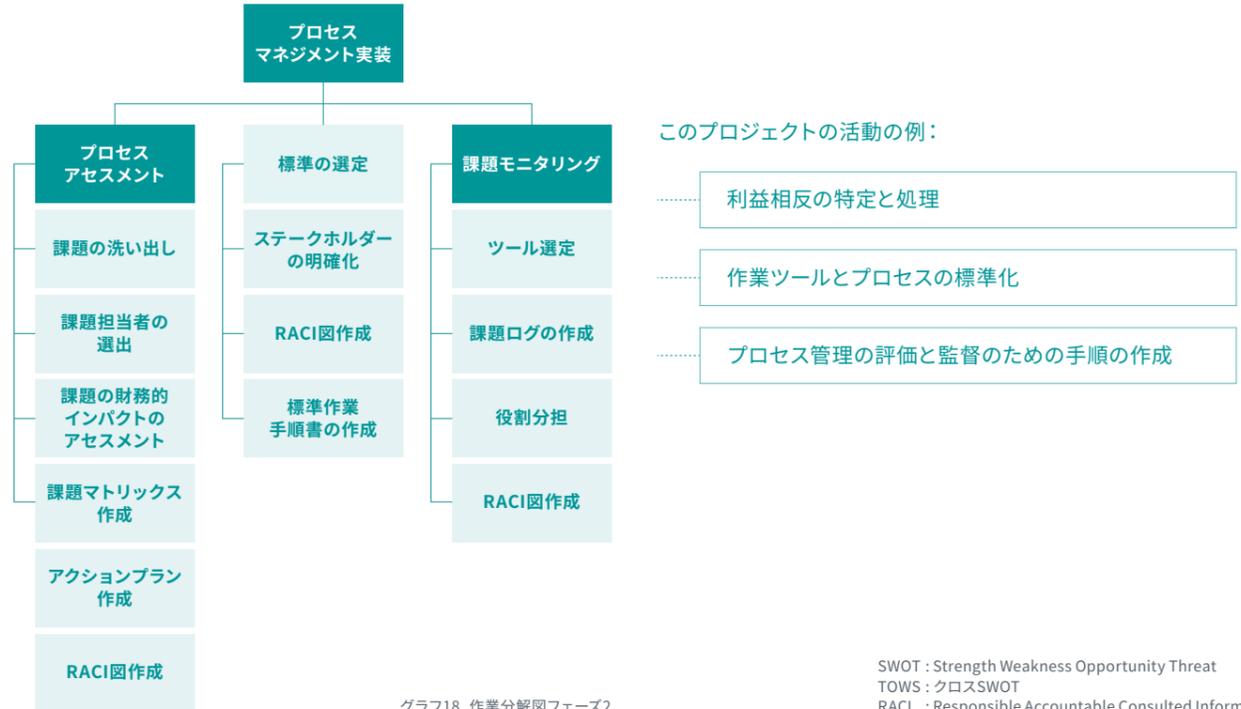
このプロジェクトは2つのフェーズに分けて実行する予定です。最初のフェーズは、GPSSグループの所属会社のコンプライアンス評価を実施し、2番目のフェーズではプロセスマネジメントの実装を図ります。したがって、GPSSグループの各所属会社において既に存在する課題、および新たなプロセスとその過程で起こりうる課題を管理する体制となることを目的としています。

作業分解図
フェーズ1



グラフ17_作業分解図フェーズ1

作業分解図
フェーズ2



グラフ18_作業分解図フェーズ2

SWOT : Strength Weakness Opportunity Threat
TOWS : クロスSWOT
RACI : Responsible Accountable Consulted Informed

GPSSのコーポレートガバナンス 23 外部からの評価



GPSS certified 4 stars

GRESBは、実物資産（不動産・インフラストラクチャー）投資の環境・社会・ガバナンス（ESG）配慮を測る年次のベンチマーク評価、及びそれを運営する組織の名称で、責任投資原則（PRI）を主導した欧州の主要年金基金グループを中心に2009年に創設されました。投資先の選定や投資先との対話にGRESBデータを活用する「投資家メンバー」は2019年9月現在100機関（昨年75機関）以上（運用資産額 22兆米ドル、約2,420兆円、1米ドル=110円で換算、不動産・インフラストラクチャー以外の資産も含む）に上り、日本からも株式会社日本政策投資銀行（DBJ）、三井住友DSアセットマネジメント株式会社（2019年3月加盟公表）が加盟しています。GRESBインフラストラクチャーは、2016年から開始された、インフラファンドおよびその投資先インフラストラクチャー資産や運営会社のESGパフォーマンスを評価するベンチマークです。インフラ資産・運営会社を評価対象とする「アセット評価」には、本年393機関の参加がありました（昨年290機関）。詳細は、[GRESB.com](https://www.gresb.com)をご覧ください。



GPSSホールディングス株式会社は、この度初めて制定したグリーンファイナンス・フレームワークに対し、株式会社日本格付研究所JCRより最高ランク「Green1 (F)」の格付が付与されました。具体的にはJCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、GPSSホールディングスの「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)”、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とし、その結果、総合的評価として最高ランクの格付が付与されました。

本フレームワークは、GPSSホールディングスのグリーンファイナンス（本フレームワークに基づくグリーンbond発行およびグリーンローン借入）における理念・手続き等を記載した方針であり、具体的にはGPSSホールディングスがグリーンファイナンスにより調達する資金を、環境改善効果を有するプロジェクトに対して利用することを定めています。



お問合わせ

東京

〒105-0014
東京都港区芝2-5-10 芝公園NDビル 6F
TEL 03-6435-2391

東北

〒980-0021
仙台市青葉区中央3-6-7 SSスチール仙台駅前ビル 5-C
TEL 022-302-7072

九州

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東1-1-33 はかた近代ビル9階
TEL 092-409-3409

札幌

〒001-0035
札幌市北区北35条西8-3-6
TEL 011-374-8712